

会 議 報 告 書

1 会議名	平成26年度第3回北上市子ども・子育て会議		
2 日 時	平成26年7月2日（水） 午後1時30分～3時30分	3 場 所	本庁舎5階 第1会議室
4 出席者	<p>【委員】今西界雄会長、小田島瑠璃子委員、佐藤仁美委員、古舘弘美委員、鈴木恵美子委員、高橋郁男委員、小川さつき委員、畠山竜司委員、伊藤隆一委員、岸隆子委員、佐藤和美委員、及川正男委員（委員出席13名、欠席1名）</p> <p>（事務局）</p> <p>（傍聴者） 2名</p>		
<p>【内 容】</p> <p style="padding-left: 20px;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 挨 拶 （教育長、今西会長）</p> <p>3 議 事 （議事は今西会長の進行）</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準案について</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準案について</p> <p style="padding-left: 40px;">(3) 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準案について （一括で協議）</p> <p style="padding-left: 40px;">【資料No.1 「新たに定める基準等に係る条例について」に基づき高橋係長が説明】</p> <p>説明の要旨</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 及び(2)については、国の従うべき基準に基づき案を作成しました。(3) の学童保育の基準については、参酌すべき基準のうち、定員については国の基準通り40人とし、独自の経過措置を設けることとして良いかのあたりについて協議をお願いします。</p> <p>協議結果</p> <p style="padding-left: 40px;">(1)、(2)においては原案通り賛成。</p> <p style="padding-left: 40px;">(3)について、学童の受け入れ規模は、40人と区切らず超えてもいいのではないかとあわせて、超えた場合に指導員をどう加配するか、市独自の基準がほしい。また、経過措置を設けてほしい。</p> <p>【主な質疑、意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各学童保育所の現時点での入所者数は、前回のガイドラインに沿い概ね70人である。前回の分割では保育室や玄関は別々にする等厳しかった。40人に分けるとなった場合の、施設の基準はゆるめにしてほしい。また、経過措置を設けてほしい。 ◆学童の定員は、地域の面積、人口や保育士の数などがあるので、一概には決められないのではないかと。また、学童は、学年がばらばらなので、40人にこだわらなくても、高学年が小さい子のお世話をするなど可能で、学年の構成などもあるのではないかと。指導員の大変さも年齢構成で変わってくるのではないかと。 ◆学童保育所の駐車場が狭かったり、駐車場前の道路が通学路になっていて危険であるなど、施設の環境についても問題があるので、取り組んでほしい。 ◆預かっている子どもに、選択制で塾のようなことを実施することは可能なのではないかと。 			

- ◆学童の指導員は給料の割に大変な仕事をしている。処遇改善も必要ではないか。
- ◆学童の規模が大きくなったら、それに応じて指導員も増やすような規定も必要。
- ◆規模に応じて補助金が増えるとは思いますが、40人のところに国の運営費補助金のピークが来ているのであれば、人数の多い学童もよとした場合、補助金の不足分を補助することも市独自として考えていかなければならないのではないかと。

(4) 量の見込みについて

【資料No.2「需要量の見込みについて」により高橋係長が説明】

説明の要旨

前回の話し合いにおいて、あまりにも余裕のない数値すぎるのではないかとのご意見をいただきましたので、再考しました。見直したのは、0歳を200人から220人に、1、2歳児を570人から600人にした部分です。また、前回示した地域子ども子育て支援事業については、量の見込みがどうしても推計できないことから、事務局にお任せ願います。

協議結果

よろしいです。

4 その他

- ◆北上らしさというのは何なのか、目指しているところがわからない。
 - 北上は工業都市で、待機児童があるのは県内では数市町村しかありません。子ども・子育て支援事業計画の策定に現在取り組んでいますが、子どもが減っているため、全国的には、どうやって保育園を縮小していこうかという計画になっているそうです。そういう中、北上は、花巻に比べ人口は少なくても子どもが多いという特徴もあります。北上独自の課題をどうカバーしていくか考えるのが、北上の計画です。次回以降は、計画書の内容について議論をお願いします。